



「わとくのサンルームから」

兵庫県立和田山特別支援学校

校長 野口 照正

←本校ブログページのQRコードです。

1 はじめに

第9号から1か月半以上、発行を怠りました。令和6年は月2回の発行を継続するよう、肝に銘じます。申し訳ございませんでした(; ∇ ;)

さて、今年は元旦早々に能登半島で発生した大地震の被害状況が心配ですね。阪神・淡路大震災でも多くの学校が避難所となりましたから、現地で勤務をされている先生方はその対応に追われ、新学期の準備も儘ならないことでしょう。特に能登半島内に複数の分教室を持つ「県立七尾特別支援学校」の状況は、とても気がかりです。一日でも早く教育活動が再開されることを願うばかりです。

因みに、兵庫県教育委員会には震災・学校支援チームとして、「EARTH」があります。本校にもメンバーに入っている先生がおられ、近日中に出動の要請がありそうです。現地での活躍に期待をしながら、本校としても息の長い「支援」を考えていきたいと思います。

2 ナンバーワンかオンリーワンか

ある日の通勤途上で、「ナンバーワンか、オンリーワンか」を話題にしたラジオ番組を耳にしました。

その番組では、スポーツ界に多くの有名選手を輩出している石川県の私立星稜高校で長らく野球部を指導された前監督・山下先生が、あるインタビューで甲子園での優勝を目指す気概を「日本で1番高い山はみな知っているが、2番目に高い山を知っていますか？」と答えられたそうです。「ナンバーワン」へのこだわりがよく伝わるコメントですね。

「オンリーワン」については、年末のTV番組でおなじみの「M-1グランプリ」での漫才コンビ『さや香』を例にして考えてみましょう。ご存じの通り、決勝戦1stラウンドを最得多点で通過しながら、最終決戦では無得点に終わりました。その原因が「見せ算」

というネタのミスチョイスであると、多くのマスコミが評価しました。しかし、当の本人たちは「優勝するならこのネタで！」と、予め最終決戦のネタは決めていたそうです。私はこの記事を読み、彼らのプロフェッショナルとしての「心意気」を感じ、とても感心しました。「記録」には残らなくとも、「記憶」に残る、まさに「オンリーワン」を求めた姿と思いました。

「ナンバーワン」か「オンリーワン」か。どちらが正解かという不毛な議論は求めません。しかし、「オンリーワン」が「ナンバーワン」になることがありますよね。本校の児童・生徒が各々の個性を生かして「ナンバーワン」になれるポジションを見つけることは、本人の心の成長につながるものと考えます。そして、たくさんの「ナンバーワン」が生まれることで相互にリスペクトが生まれ、本校の更なる活性化にも寄与します。児童・生徒のみなさんがいろいろなポジションで「ナンバーワン」となることを期待しています。

3 ある日の校長室で…



昨年の11月下旬に、高等部の男子生徒2名が校長室に来てくれました。本校寄宿舍の有志4名でチームを作り、大阪府内で開催された「ボッチャ」の大会に参加をし、その報告を伺いました。彼らの思いにご理解やご支援をいただきました保護者の皆さまや寄宿舍の先生方にも、この場を借りてお礼を申し上げます。今後の更なる活躍を期待しています。

これからも学部を問わず、気軽に校長室に来てくださいね(^_^)v

最後までお読みいただき、ありがとうございました。